明治十五年一月四日

軍人勅諭下賜

（本項ハ右ニ
宮内省又ハ内閣、及陸軍ノ資料
ニ拠ル、拙稿）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

軍務局
東海鎮守府
兵学校
砲術学校

各通

軍人御訓誡之勅諭及下附置候處自今生徒及下士以下之者へ毎週一回ツヽ為諳誦置キ御訓諭之旨趣貫徹候様可取計此旨相達候事

明治十五年一月十六日

海軍卿代理陸軍卿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

軍務局ヨリ達（いろは文（生徒及下士卒以下））
ノ七字ヲ（軍楽隊）ノ三字ニ改作ル

（明正印刷納）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

艦船屯営へ御下付ノ勅諭可相渡
条至急出願可有之候也
明治十五年二月十三日
海軍卿
東海鎮守府司令長官
兵学校長

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

海軍

（明正印刷㈱）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

五

明治二十三年
陸海軍聯合大演習
海軍関係記事ノ概要

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

陸海軍聯合大演習大本營

統監 天皇陸下

審判官 參謀長 熾仁親王

審判官

陸軍

參謀次長 少將 川上操六

歩兵大佐 小川又次

歩兵大佐 川村景明

歩兵大佐 立見尚文

歩兵大佐 高橋維則

海軍

參謀部長 少將 有地品之允

少將 伊東祐亨

大佐 伊東祐亨

陪從官

工兵中佐 敷島重雄 外拾壱名

副官

歩兵中佐 上領頼方 外八名

陪從員

大佐 尾本知道 外弐拾七名

監督部長

一等監督 野田豁通

監督部員

一等軍吏 所部直直 外壱名

審判官兼長官傳令使 大尉 佐木廣勝 外壱名

審判官傳令使 大尉 中村貞邦 外弐名

運送監督 大尉 今井寛発 外弐名

海陸運信信号掛 大尉 荘司義基 外弐名

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

西軍

艦隊司令長官海軍少將男爵 井上良馨
參謀 海軍大尉 齋藤實

	艦船名	種別	排水噸數	艦長（運送船ハ監督將校）
常備艦隊	高千穂	巡航艦	三、七〇九	海軍大佐 坪井航三
	扶桑	巡航甲鐵艦	三、七七八	海軍大佐 瀧野直俊
	浪速	巡航艦	三、七〇九	海軍大佐 角田秀松
	高雄	巡航艦	一、九八七	海軍大佐 山本權兵衛
	大和	巡航艦（木製）	一、五〇〇	海軍少佐 諸岡頼之
	葛城	巡航艦（木製）	一、五〇〇	海軍少佐 宮田祐章
護送艦	比叡	巡航艦（鐵骨木皮）	二、二八四	海軍大佐 田中綱常
	海門	巡航艦（木製）	一、三七五	海軍大佐 平尾福三郎
	武藏	巡航艦（木製）	一、五〇〇	海軍少佐 松永雄樹
運送船	和歌浦丸	商船	二、一五七	海軍大尉 今井寛亮
	薩摩丸	商船	一、八六六	海軍大尉 井手麟六
	新浮丸	商船	一、九一〇	海軍大尉 小橋萬藏

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

東軍　艦隊司令長官海軍少將 福島敬典
参謀 海軍少佐 櫻井規矩之右

艦隊名	種別	排水噸數	艦長（水雷艇ハ艇長）
演習艦隊			
金剛	巡航艦（鉄骨木皮）	二、二八四	海軍大佐 鮫島員規
筑紫	巡航艦	一、三七二	海軍大佐 森又七郎
天龍	巡航艦（木製）	一、五四三	海軍少佐 有馬新一
鳳翔	砲艦（木製）	三、二一	海軍少佐 田口義尚
摩耶	砲艦	六、二二	海軍少佐 永田賛知
磐城	砲艦	七、八〇	海軍少佐 高木英次郎
横須賀水雷艇隊			
愛宕	砲艦	六、二二	海軍少佐 澤良渙
小鷹	水雷艇	一、六六	海軍大尉 今井兼昌
第一號艇	水雷艇	四〇	海軍大尉 二木勇次郎
第二號艇	水雷艇	四〇	海軍大尉 川島令次郎
第三號艇	水雷艇	四〇	海軍大尉 石田一郎

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一般方畧

西軍（侵入軍）ハ貳ヶ国連合シ強大ナル艦隊ヲ以テ海ヲ制ス

西軍ハ伊豆ノ大島下田及淡路和歌山ニ上陸休養シ其艦隊ヲ之ヲ掩護ス又間々長崎福岡伊勢駿河函館ノ海邊ニ出没ス

東軍（日本軍）ハ各衛戍地ニ在テ充員ヲ完成ス

東軍艦隊ノ一部ハ馬関海峡鳥羽港ニ他ハ東京湾内ニ集合ス日本ノ商船ハ馬関海峡大阪川口東京湾内ニアリ

東京湾口鳥羽港及馬関海峡ハ防禦編成完

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

備ス

消

（明正印刷㈱）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

西軍艦隊司令長官報告（抄録）

三月二十五日　館山港

本日迄ニ館山港ニ集合スヘキノ訓令ニ依リ昨二十四日ヲ以テ麾下各艦高千穂扶桑浪速高雄大和葛城悉ク集合ス午前九時三十分各艦人員調査ヲ行フ

三月二十六日

午前十時二十五分各艦戦闘準備ヲナサシム二十九分三十秒ニシテ悉ク整フ

午后各艦ノ戦闘準備ヲ點検ス

三月二十七日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

午後五時五十五分揚錨館山港出港單縱陣ニテ航進針路ヲ西南西ニ定メ豆州ト大島トノ間ヲ通過シ十時針路ヲ南西ニ變ス

三月三十八日

午前一時十五分針路ヲ西ニ變ス三時三十分高雄ニ駿河灣内ノ偵察ヲ命ス三時三十五分針路ヲ北ニ變シテ駿河灣ニ向フ六時四十五分高千穂浪速ノ二氣艦ニ點火セシム七時高雄帰リ来リ港内歇ナキヲ報ス而シテ高雄ヲ列ニ入ラシメ爲城ヲ陣ヲノ外五艦清れ港ニ向フ爲城ハ館山出港以来信號距離ヲ保ツテ隊後ニ在ラシメシカ此時ヨリ駿河灣外ニ止メ警戒ノ任務ヲ取ラシム八時六分右舷錨ヲ以テ豫定ノ錨場ニ

(明正印刷局)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

碇泊ヲ命ス九時各艦碇泊シ終ルヤ探リ打方ヲ
命シ沿岸ノ疑敷家屋ニ向ヒ榴弾ヲ発スレモ
一ツモ敵兵ヲ認メサリシ九時十五分陸戦隊編制
旗艦々尾ニ集合ノ命ヲ下ス九時五十一分各艦ノ
群艇悉ク集ス直ニ陸戦隊指揮官島崎
海軍少佐各艇ヲ引率シ江尻附近ノ海岸ニ向フ
陸上敵ナキヲ以テ各隊容易ニ上陸シテ鉄道線
路ヲ破壊シ交通ノ便ヲ断ツ十一時上陸ノ陸戦隊
ヨリ敵軍見ヘスト信号セリ十一時十五分陸戦隊ヘ
破壊済ニ次第帰艦セヨト信号ス
午後一時五分陸戦隊悉ク海岸ヲ離ルヽヲ認ム一時
十三分戦闘部署ヲ撤ス四時三十五分小隊及ビ艦
隊ノ番号ヲ定ムル左ノ如シ

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

（第一小隊高千穂高雄大和）
（第二小隊扶桑葛城浪速）
五時揚錨江尻沖出発單縦陣ヲ制リ湾外ニ
向フ六時十分葛城ヲ列ノ左前方ニ見テ定位
置ニ就ケト令ス六時四十三分葛城列ニ入ル九時十
五分針路ヲ西二分ノ一定メ的矢港ニ向フ

三月二十九日

午前一時三十分浪速ニ前衛ヲ命ス四時三十分第二陣
形ヲ制ル時ニ風浪烈シキカ故小艇運輸ニ便ナラ
ス拂暁各艦ヲシテ薩艦ノ通跡ヲ追ハシメ單縦
陣ニテ航行ス時三十分前衛浪速的矢港外ニ止
マリ鳥羽地方ニ見ユルト報ス六時四十五分浪速
帰隊スルヤ高雄ニ令シテ的矢港ヲ偵察セシム七時

（明正印刷納）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

運送船薩摩丸及ヒ新潟丸我艦隊ノ左側ニ
来ル本艦隊ハ的矢港外ヲ巡航シツヽ高雄ノ
復命ヲ待ケシニハ時三十分高雄帰隊シ港
内ニ入ルナシト報セリ依テハ時四十五分扶桑
大和ノ二艦ニ令シテ的矢港ヲ占領セシム九時
四十分安乗埼燈台以南ニ左舷錨ヲ以テ
便回碇泊ヲ令シ高千穂高雄葛城ヲシテ
假泊セシメ浪速ヲシテ港外ヲ警備セシム
午後零時二十分護送艦比叡武蔵運送
船和歌浦丸東方ヨリ来リ的矢港口ニ接近スル
ニ及ンデ錨地ニ就ケト令ス（浪速ヲシテ此信号ヲ受継ワシム）比叡
ハ運送船等ニ令シテ隊列ノ錨地ニ向ハシム二
時竹内伊令使ヲ高雄ニ乗組マシメ比叡艦

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

長ヘノ命令ヲ傳ヘシム四時十八分竹内伊令使帰
艦復命ス本日目的矢港ニ敵器ヲ障害物ハ
天候ニ依リ實施セス六時五十五分水雷艇防禦
ノ部署ニ就カシム七時三十分揚錨高雄葛城
浪速ノ三艦ヲシテ旗艦ノ通路ヲ進マシム八時四
十五分島羽港口ノ燈台ヲ左舷ニビーム八浬
ニ見テ燈火ヲ覆ヒ越戸ニ向ツテ航進スル九時
四十九分燈火ヲ顧ハス九時五十分神島ノ頂上
ヨリ輝發信号ヲ發光スルヲ認ムレトニ三光シ
テ停止シタルヲ以テ遂ニ其何タルヲ辨知スル
能ハサリシ十時三十五分左舷錨ヲ以テ越戸沖
ニ便宜碇泊セシメ高雄葛城ハ明朝五時ヲ期
シ的矢ヘ未レト合スヲ而シテ此ノ二艦ヲコヽニ留メ

注

(明正印刷納)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

置キ月没後敵ノ水雷艇的矢港ヲ襲フノ虞ナキヲ保シ難キニ依リ高千穂浪速ハ月没セサルニ先ツテ的矢港口ニ至リ電燈ヲ以テ港口ヲ防禦シ以テ本日実施スル能ハサリシ障害物ノ欠ヲ補ハント期セリ

三月三十日

高千穂浪速ハ午前零時十分越ヶ沖ヲ抜錨シ高千穂ハ二時三十分的矢港外ノ安乗島ノ近傍ニ假泊シ浪速ハ同港口ス北ニ碇泊シテ暁ニ至ル迄ニ艦灯モ電燈ヲ點シ以テ港口ヲ防衛シ敵ノ水雷艇ヲシテ港内ノ艦船ヲ襲フ能ハサラシメタリ

午前五時浪速ヲシテ神島近傍ノ偵察ヲ命

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ス高千穂ハ的矢湾口ヲ扼守ス此時扶桑的矢港ヨリ出港ス五時三十分大和田港ニ来ル五時四十分單縦陣ヲ制ル六時三十分浪速帰隊シ敵ノ艦隊神島近傍ニアリト報ス依テ單縦陣ニテ旗艦ノ通跡ヲ追ヒ伊良湖水道ニ向フ敵ノ艦隊ハ神島ノ蔭ケニ隠レリ八時三十七分追ヒテ伊良湖水道ヲ突貫セントス此モ旗艦高千穂水道ニ臨ムトキ敵ノ水雷艦三艘我前面凡千七八百米突ノ距離ニ於テ通過スルアリ其ニ隻ハ弾丸ノ有効距離内ニ於テ高千穂ヨリ充分ニ砲撃シタリ九時高千穂神島ニ並ヒ敵艦隊ノ後続艦ニ向フテ砲撃ヲ加フ此時敵艦隊ハ漸次神島ノ西則

(明正印刷㈱)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ヲ進ム依テ我艦隊ノ殿艦ハ敵ノ旗艦金剛島南
ニ出ルヲ待ツテ猛烈ナル砲火ヲ行ヘリ九時十分我
艦隊ハ旗艦ノ通跡ヲ進マシメ列ヲ右十六點ニ
旋ラシ原速力ヲ九里トシ旗艦ハ高ホ速力ヲ増
加シテ敵ノ艦隊ヲ追フ此時敵ノ艦隊ハ四艦ニシ
テ金剛（旗艦）天龍筑紫磐城ノ順ヲ以テ単
縦陣ヲナシ水雷艇ヲ引具シテ我カ運送船
ニ向テ進航ス護送艦隊（比叡海門武蔵）
ハ運送船ヲ囲ク彈着距離外ニ辟ケシメ
敵ノ艦隊ヲ撃殺ス我艦隊追尾シテ彈
射距離ニ達シ砲火ヲ浴スルトキ敵ノ艦隊
ハ右ハ點ニ方向ヲ変シ島羽港ニ逃レタリ我
敢テ尾撃セス此時敵艦鳳翔摩耶ハ

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

答志島ノ前面ニ在ツテ砲撃スル見ルト雖モ
距離遠隔ニシテ彈丸ノ達スヘキ限リニアラサリ
シ九時四十分速カヲ落シ高雄大和ニ
シテ知多湾ヲ偵察セシム然ル後チ
艦ヲ率ヒ再ヒ伊良湖水道ニ進入シ同時運送船護送艦隊ニ
ヲ視察スルニ鵜ノ島羽港ヨリ発船
口ニ出テ水雷艦ヲ率ヒ我挙動ヲ窺フ
モノヽ如シ故ニ我レ敢テ軽進セス最微速力
ニテ彼レヲ抑制シツヽ軍送船ヲ知多湾
ニ護送セシメントス午後一時三十五分高雄知
多湾ヨリ帰リ来リテ湾内異情ナキヲ報
ス依テ高雄護送艦隊及ヒ軍送船ヲシ
テ知多湾ニ入ラシムコレヨリ先キ敵ノ水雷

(明正印刷納)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

答志島ノ前面ニ在リテ砲撃スル見ルト雖モ
距離遠隔ニシテ弾丸ノ達スヘキ限リニアラサリ
シ九時四十分速力ヲ落シ高雄大和ニ令
シテ知多湾ヲ偵察セシム然シ後チ残ル四
隻艦隊ハ進撃ス

[illegible]

ヲ永安スルニ該小島附近ヨリ発射後
ロニ出テ水雷艇ヲ率ヒ我拳動ヲ窺フ
モノヽ如シ故ニ我レ敢テ軽挙セス最微速力
ニテ彼レヲ抑制シツヽ軍送船ヲ知多湾ヲ
ニ廿護送セシメントス午後一時三十五分高雄知
多湾ヨリ帰リ来リテ湾内異情ナキヲ報
ス依テ高雄護送艦隊及ヒ軍送船ヲシ
テ知多湾ニ入ラシムコレヨリ先キ高雄ノ水雷

注

(明正印刷局)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

見ルト雖モ
リニアラサリ
雄大ニシテ
夕チ
入シ間時運送船護送艦隊ニ合シテ伊良湖水道ニ入ラム我艦隊伊良湖水道ニ入ツテ
飛鳥
動ヲ窺フ
取微速力
知多湾
ヲ高雄知
旧ナキヲ報
送船ヲシ
敵ノ水雷

(明正印刷局)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

船ハ舊伊勢海ヲ横過シ来ルヲ見ル高速ノ
距離ヲ計リテ浪速ニ命シ砲撃セシム浪速
全速ヲ以テ追撃スルニ彼レ逃セントスルモ及
ハサルヲ以テ充分ニ撃破セラル彼レ遠カサルヲ
見テ浪速ヲ定位置ニ就カシム一時三十七分探
速力ニ復シ軍艦愚ヲ知多湾ニ入ルヲ認
メ艦隊四艦単縦陣ニテ師崎水道ニ向フ
二時五十三分艦隊第一ノ隊定錨地ニ碇泊
ス三時五十六分探リ打方ヲ命シ各艦ヲシテ焼
砲セシムレドモ一ツモ敵兵ヲ認メサリシ四時三分
打方ヲ止メ陸戦隊編制高雄艦尾ニ集合
シ陸戦隊ノ上陸ヲ命スヲシテ扶桑ヲシテ
メーントツプスルヲ開展セシム此叡之ニ應ス

コレ河和沖ニ假泊セル運送船及ヒ護送船隊ヲシテ港セシムルノ信号ナリ四時二十五分港口ノ警備ニ従事シタル海門入リ来ツテ敵ノ水雷艇見ユルト報ス故ニ浪速ヲシテ錨鎖切断出港シ水雷艇ノ要撃ヲ命ス續テ高千穂高雄モ出艦ノ準備ヲナサシム四時五十分高千穂ノミ出艦港内ヲ運動シテ後チ錨地ニ及ル敵ノ艦隊及ヒ水雷艇ハ中山水道ニ出没シタリシカ六時浪速歸リ報シテ曰ク敵ノ水雷艇小飛島近傍ニ見ユト因時運送船及ヒ護送艦隊ハ定錨場ニ碇泊ス又陸義隊指揮官ヨリ傳令使ヲ以テ武豊ヲ占領シ了ツテ喇

注

(明正印刷納)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

兵ヲ配置セル旨報告セルニ依リ直ニ派遣
将校監督将校等ヘ兵馬軍須陸揚ノ
命令ヲ授シ護送艦隊ヨリハ端艇兵員
等ヲ運送船ニ出サシム
六時三十分ヨリ各艦水雷艇防禦ヲナシ高
千穂浪速扶桑比叡第二ノ防定錨地ニ碇
泊ス唯タ哨艇ノ配置ハ陸兵上陸ト陸戦
隊ノ交代隊定ノ如ク行ハレサリシニ依リ充
分ニ實施スルヲ得サリシ午後九時ヨリ十時
十分迄テノ間前後四回ノ水雷艇来襲ス
ルモ電氣燈ヲ映照シ砲銃ヲ發射シ一ツモ
彼ヲシテ其ノ目的ヲ達セシメサリシ
三月三十一日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

拂曉浪速ニ合シテ湾口ヲ視察セシメ復命
ノ後午信弾距離ヲ保ツテ湾口ニ碇泊警
戒セシム午前六時比敵海門武藏ノ兵員
ヲ以テ編制シタル陸戰銃隊一中隊ト野
砲一門ヲ知多湾東岸三州大濱近傍
ニ上陸セシメ東軍ノ背後ヲ衝クノ狀ヲ示ス
六時三十分武豊占領ノ陸戰隊(陸軍部隊
ト交代ヲ了)帰艦ニ同時ニ各艦ノ哨艦モ帰
艦セリ午後四時十五分ヲ以テ兵馬軍須ノ
陸揚ヲ完了ス同七時五分大濱ヘ上陸ノ陸
戰隊帰艦ス
本日午前六時五十五分ヨリ午后四時ニ至ル間
大和高城二艦ヲシテ其錨地ヨリ亀崎方面

(明正印刷)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ノ敵ヲ砲撃セシメ陸上ノ西軍ニ應援セシム
午後五時審判官ヨリ海戰止ムノ信號アリ
同時各艦ニ令シテ隨意錨地ヲ變セシム

四月一日　武豐港

午前七時十五分各艦ノ戰鬪準備ヲ原トニ
復セシム同時兵馬軍須陸揚濟次第運
送船ヲ横須賀ヘ回航セシムヘキノ命令ニ接ス
故ニ扶桑大和浪速ノ三艦ヨリ水兵ヲ又菖城
ヨリ小蒸艦ヲ出シテ機械浮船等ヲ各運送
船ニ收メシム午後四時和歌浦新宮薩摩
ノ三船武豐ヲ發シ横須賀ニ向フ此日東軍
ノ艦船モ悉ク武豐ニ入港セリ

四月二日

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

午後四時名古屋大本営ニ於テ本官其他列
席員参列シ講話ヲ終テ勅語ヲ賜フ

（明正印刷㈱）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

東軍艦隊司令長官報告（抄録）

本官ハ三月十一日幕僚ヲ率ヒテ金剛ニ乗艦三月十九日横須賀港抜錨同二十一日鳥羽港ニ投錨ス同日筑紫モ亦入港ス是ヨリ先キ天龍鳳翔摩耶ハ既ニ同港ニ碇泊ス爰ニ於テ鳳翔摩耶ニ神島近傍及各水道ノ暗礁浮標設置ヲ命シ筑紫ニ神島山上ニ信号竿ノ建設ヲ命ス二十三日各水雷艇入港シ二十六日愛宕磐城入港ス爰ニ於テ東軍ノ艦艇悉ク鳥羽港ニ集ル

三月二十九日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

午前八時鳳翔摩耶ヲシテ各暗礁ニ設置
シタル浮標ヲ檢セシメシニ風波ノ為メニ固ヲ殘
スノ外悉皆流失シタルヲ以テ更ニ之ヲ設置
ニコトヲ鳳翔ニ命セリ同八時三十分各艦ニ戰鬪
準備ヲナサシメ金剛天龍筑紫艦城ヲ以テ
本艦隊トス午後一時投錨加布良古水道ヲ
法テ神島ノ西側ヲ通過ス此時西軍艦隊
ノ的矢港ニ入ルヲ遠望スルヲ中山水道ニ至
リ金剛筑紫二艦ノ小蒸氣艇ヲシテ偽水
雷艇ノ裝置ヲ為サシムル為メ古田灣ニ送ラシ
ム後午各艦伊勢灣ニ到リ阿蘭浦ニ投錨
ス時ニ午後九時三十分ナリ

三月三十日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

金剛筑紫天龍磐城四艦ヲ以テ午前二時阿
蒲浦ヲ抜錨シ金剛先導艦タリ天龍之ニ次キ
筑紫ヲ第二分隊ノ先導艦トシ磐城ハ殿艦
タリ爾後進航シ答志島北方ニ出ツリ敵艦
ノ電氣燈ヲ放ケ偵察スルヲ見ル天未タ明ケ
サルヲ以テ二艦群隊ヲ編制シ伊勢湾口ノ内部
ニ於テ回航シツヽ警備ヲナシタリ同七時頃ニ
至リ敵艦隊遠カニ的矢沖ヨリ伊勢湾口ニ
向ヒ来ルヲ望見ス神島信號所ヨリモ亦タ敵
船隊伊良古水道ニ向フノ信號アリ故ニ本
艦隊ヲシテ神島北西方ニ位置ヲ占メ敵艦
隊ノ鋭ヲ避ケ是時水雷艇四艘伊良古崎ノ
北方ニ潛伏シアルヲ以テ之ヲ呼ビ本艦隊ノ庇

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

艦ニアラシメ以テ敵ニ對シ發砲シツヽ神島ノ西方ニ至リ敵艦隊ノ殿艦神島ノ南方ニ在ルモノト砲戰スル間ニ敵未タ本艦隊ノ筭策ヲ察セス全艦隊益々進ミテ伊良古水道狹隘ニ至ル此ニ於テ本艦隊全速力ヲ以テ軍艦隊ヲ目的ケ突進シタリ此時敵艦隊ハ右舷十八點方向變換ヲナシ運送船ヲ援護ノ為メ未ルヲ以テ狙撃ヲ受クルヲ恐レ本艦隊ハ左舷ニ方向ヲ變シ鳥羽港ニ入リ桃取水道ヨリ伊勢灣ニ出テ敵艦隊伊良古水道通過ノ報況ニ依リ本艦隊ハ敵ノ弱點ヲ突クカ或ハ敵艦隊ノ師崎水道ヲ半バ通過ノ期ヲ猛擊セントス同十一時五十分敵艦隊

（明正印刷㈱）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ハ神島ノ方位ニ依リ嚴戒シテ進ミ運送船ハ伊良古崎ニ接近シテ通過ス故ニ本艦隊ハ之レヲ望見スルト雖モ執カニ敵セサルヲ以テ抵抗ヲ試ム能ハサリシ而シテ敵艦隊ノ師崎水道ヲ通過スルニ際シ全速力ヲ以テ之レニ赴クモ不及遂ニ敵ハ悉皆湾内ニ入ルヲ以テ其目的ヲ達セサリシ故ニ本艦隊ハ直チニ金剛天龍ヲシテ佐久島大磯間ノ水道ニ配置シ水雷艇一隻ヲシテ島蔭ニ潛伏セシム筑紫磐城ヲシテ師崎水道ニ配置シ水雷艇二艘ヲシテ島蔭ニ潛伏セシメ以テ敵ノ反擊ニ備フ又薄暮水雷艇ニ復命ヲ命シ夜ノ来スヘキアラバ襲擊シテ後ナリ翌朝復命スヘキ旨命令ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

レ氏風雨ノ為メ本艦ノ所在ヲ知ルヲ得スシテ翌朝ニ至リ復命ス偽水雷艇モ亦タ風雨ノ為メ使用スルヲ得サリシ

摩耶鳳翔ハ神島ト大築小築両島ノ間ニ在テ本艦隊ノ援助ヲナシ敵艦発砲距離ニ現出スル毎ニ砲撃ヲ行フ午後一時摩耶援護ニ故障ヲ生シタルヲ以テ鳳翔ト共ニ鳥羽ニ帰港セシム

三月三十一日

午前二時降雨怒濤ヲ辨セス金剛天龍共ニ投錨ス同七時水雷艇佐久島ノ東端礁上ニ座スルヲ見ル直チニ金剛ニ救助艇ヲ出サシム午前七時三十分演習中止後ヲ東軍休戦ノ合アリ

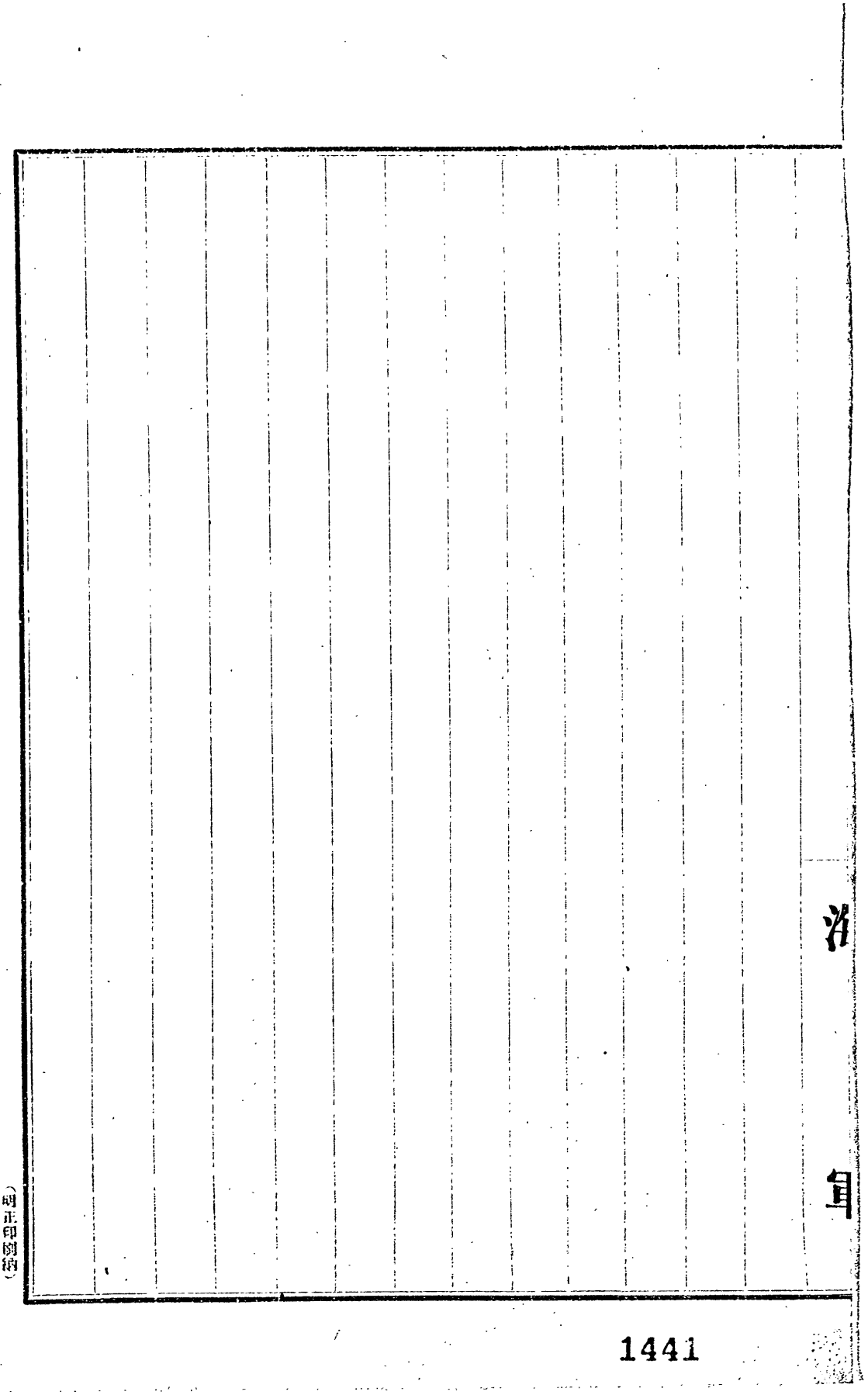
明正印刷㈱

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

四月一日
部下各艦艇ヲ武豊港ニ集合ス
四月二日
本官始メ各艦長其他列席員講評ノ
為メ各左記ニ至ル午後大本営ニ於テ講評ス

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

明治二十七年九月十七日

日清役　黄海海戦

1442

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

明治二十七年九月十六日午後五時伊東司令
長官ハ本隊、第一游擊隊及軍艦赤城、西
京丸ノ十二隻ヲ率ヰ小孚嶽角鎮地ヲ
發シテ黄海ノ北部ナル海洋島ニ向フ此行
特ニ赤城ヲ伴ヒタルハ、同艦ノ喫水淺キヲ利
用シ沿岸或ハ島嶼ヲ捜索セシメンカ為ニシ
テ又西京丸ノ隨航セルハ樺山海軍軍令部長
ノ一行之ニ坐乘シテ諸般ノ状況ヲ視察セン
カ為ナリ艦隊ノ航行序列ハ第一游擊隊
ヲ先頭トシテ本隊之ニ續キ赤城及西京丸ハ
本隊ノ右側ニ位ス午後七時針路ヲ北西ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

西ニ変シ海洋島ニ向フ是タ西南風稍緩
ヲ加ヘリ両之ニ従ヒ風上閃々電光ヲ見ル
十七日時変第一游撃隊ハ海洋島附近ニ
達シ其ノ西方ニ出テ象登嶴ニ到リテ嶴
口ヲ視ヒ更ニ針路ヲ北東ニ変シテ大洋河口
ニ向フ
午前六時三十分本隊モ亦之ニ近ツキ赤城ニ命
シ象登港内ニ入リテ敵艦ノ有無ヲ偵察セ
シメ速カヲ減シテ之ヲ待ツ暫時ニシテ赤城出
テ来リ敵無キヲ報ス因テ第一游撃隊ト
同般路ヲ採リ行々三艦群陣ノ一ヲ編制
シ戦闘操練ヲナス時ニ赤城ト巡洋艦代
用西京丸トハ本隊ノ右側ニ在リ第一游撃

(明正印刷消)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

隊ハ單縱陣ヲ制リ先頭ニ在テ航進ス是日曉未明北北西ノ両駆ニ天高ク氣朗ナリ第一游擊隊ノ旗艦吉野ハ午前十時二十三分北東ニ當リ水平線上ニ一縷ノ煙ヲ認メ信號ヲ以テ之ヲ本隊ニ報ス少焉アリテ一縷ハ二縷ト爲リ三四縷ト爲リ遂ニ敵ノ艦隊ナルコトヲ確認スルニ至リ再ヒ本隊ニ向テ敵ノ艦隊三隻以上東方ニ見ユトノ遠距離信號ヲ揭グ時ニ十一時三十分ナリ是ニ於テ本隊ハ直ニ群陣ヲ解キ單縱陣ヲ制リ赤城及西京丸ヲ本隊ノ右側ヨリ左側ニ移ス午後一時五分伊東司令長官ハ各艦ニ命シテ大軍艦旗ヲ檣頭ニ

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

揺ケ兵員ヲ戰闘配置ニ就カシム第一游擊隊ノ諸艦モ亦之ニ準ス已ニシテ我艦隊漸ク近ムニ從ヒ敵ハ十隻ヨリ成ル優勢ノ艦隊ニシテ我軍前面ノ右方ニ列リ黑煙ヲ叢騰シテ進ミ来リ又前面左方ニモ別ニ二三隻ノ敵艦アリテ其ノ煙煙四方ニ左方ニ揺曳スルヲ見ル坪井司令官ハ之ヲ望ミテ第一游擊隊ノ諸艦ニ向ヒ「高当ノ距離ニ至ラバ砲ス可シ」トノ令ヲ下ス而シテ伊東司令官長官ハ零時十八分第一游擊隊ニ「右方ノ敵ヲ攻擊スヘシ」トノ命令ヲ與ヘ同二十分西京丸ニ「時ヲ」ト令シ本隊ニ向テハ同三十分「速力十海里」同三十二分「距離

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ニ注意セヨト命シ寄テ同四十分赤城ニ近寄レト令シ斯クテ同五十分ニ至リ各艦ニ「近寄」ノ時機ニ達セハ砲撃セヨトノ令ヲ下セリ

尚ほ第一遊撃隊ハ針路ヲ東北東ニ取リ八海里ヲ以テ進ミ零時三十分伊東司令長官ノ命ニ依リ更カラサル海里ニ進ム陣形司令官ハ屢々距離ノ注意ヲ促シ以テ正ニ単縦陣ヲ以テ先ツ敵艦隊ノ中堅ヲ撃ツヲ期シ之ヲ突破セントスルカ如キ姿勢ヲ取リテ進航ス是時敵ノ艦隊ハ七海里ノ彼方ニテ局を結ハ[illegible]セル経緯ニ鑑ミ単縦陣ヲ側リ或ハ横陣ヲ以テ[illegible]ニ徒ニ時ヲ費スト雖モ其ノ中堅ニ定ム（蔵）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

鎖遠ヲ置キ左翼ニ來遠、致遠、廣甲、濟遠アリ右翼ニ經遠、靖遠、超勇、揚威アリ、清國精鋭ノ堅艦ヲ列ネ堂々正々我第一遊撃隊ニ向テ航進シ來レリ

(明正印刷納)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

彼我兩艦隊相距ル殆ト一萬二千米突ニ及
ヒ第一游擊隊ハ少シク左方ニ針路ヲ
轉シ先ツ敵ノ右翼ヲ擊破シ以テ其ノ全
軍ノ兵氣ヲ挫折セントス
午後零時五十分兩艦隊愈々相近フキ約
六千米突ニ至ルヤ敵ノ旗艦定遠先ツ我ニ
向テ砲擊ヲ開始シ續テ一齊ニ之ニ倣フ而
シテ其ノ彈丸ハ概ネ我第一游擊隊ノ上傍
ニ落着セリ然ルニ第一游擊隊ハ距離猶ホ
遠キニ過クルヲ以テ自重シテ敢テ應戰セス
微風東方ヨリ吹キ硝煙敵艦隊ノ前面ニ
横ハリタルヲ以テ左翼ニ列スル敵艦ノ狀ヲ確
認スルコト能ハサルニ至レリ是ニ於テ坪井司

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

官ハ諸艦ニ令シ来カヲ十四海里ニ博加
シテ急駛セシム
第一游撃隊ノ應戦ハ四艦一齊ナラスト雖モ
既モ三四千米突ニ接近シ皆ナ砲撃シタル
ヲ以テ其ノ弾丸ノ命中頗ル多シ
第一游撃隊ハ斯ク奮戰シテ敵ノ右翼ヲ
圍囲シ航路半円形ヲ畫キテ右方ニ針路
ヲ転ジ敵モ亦之ニ應シテ少シク方向ヲ右方
ニ変セシカ連力挙後ナル右翼ノ楊威起
勇ヲ示タ其ノ位置ヲ占ムルニ敵アラスシテ我
軍ノ猛撃ノ被リ二艦傷ニ大火ヲ出ス
リ故ニ軍動スル能ハサルニ至レリ是時第一游
撃隊ハ依然右方ニ旋回セハ本隊殿艦ノ

(明正印刷)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

砲門ト相対シ危険少メラサルヲ以テ故ラニ速
力ヲ十二海里ニ減シ一時ニ十分大圏ヲ畫キ
テ左方ニ十六點ノ方向変標ヲ行シ我本
隊ヲ圏内ノ内方ニ置キ及對ノ方向ニ通過
セントス
是ヨリ先キ本隊ハ第一游撃隊ト殆ト同
一ノ航路ヲ取リ漸次敵艦隊ニ近接スルヤ
敵ハ第一游撃隊ト一戰ヲ交ヘテ後其ノ
中堅ハ各〻艦首ヲ本隊ニ向ケ衝突ヲ試ミ
ントスルモノヽ如ク斯ヘス發砲シツヽ進シ
來レリ然ルに其ノ両翼ノ数艦ハ運動既ニ
乱レ陣形参差トシテ整齊セス
本隊ノ六艦ハ一意單縱陣ヲ保チテ直進

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ハ猛烈ナル戦闘ヲ開始セリ

此ノ海戰ノ結果敵艦数隻、致遠、経遠ハ沉没シ揚威ハ艦座破壊シ廣甲モ亦自走ノ際大連港外ニ擱座セリ（後自ラ破壊ス）清國海軍ハ黄海ニ於テ失ヒシハ九千百九十六噸ニシテ之ニ豊島海戰ニ於ケル一千九百五十噸ヲ合算スレハ實ニ一萬一千百四十六噸ノ勢力ヲ減殺セルモノナリ且ツ定遠、鎮遠、來遠ハ大火災ニ罹リ損傷甚シク其ノ他ノ諸艦モ亦皆機損シ修理ヲ加ヘスシテ出航シ得ルモノ殆ト一隻タモ無キニ至レリ又清國軍運送船ハ鴨綠江畔ノ兵站部所在地迄凡ソ四十海里ヲ溯リシモ一艘ノ砲

注

算

（明正印刷納）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

聲タモ耳ニセス其ノ始テ海戰ヲ知ラシハ一隻ノ自国水雷艇カ注意ノ生存者ヲ載セテ來著セシ時ニ在リ其隊軍隊及軍需品ハ總テ揚陸ヲ畢リタルヲ又ヲ更ニ上流ニ溯ヘヲ安全ト思考セシモ爾等脚ヲ利軍艦ノ途中近岸ニ陣坐セル為メ已ヲ得ス他ノ四隻モ次ノ晩望潮ニテ留マルコトニ決シ而シテ二十一日ニ至リ始テ旅順帰港ノ訓令ニ接シタリト云フ

又帝国艦隊ニ於テハ松島ノ撞傷最モ甚シク赤城、比叡、西京丸之ニ亜キ其他ノ諸艦ハ殆ト損害ト云フヘキ程ノモノアルヲ見ス

勝利全ク我ニ帰シ内ハ則チ我海岸ニ

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

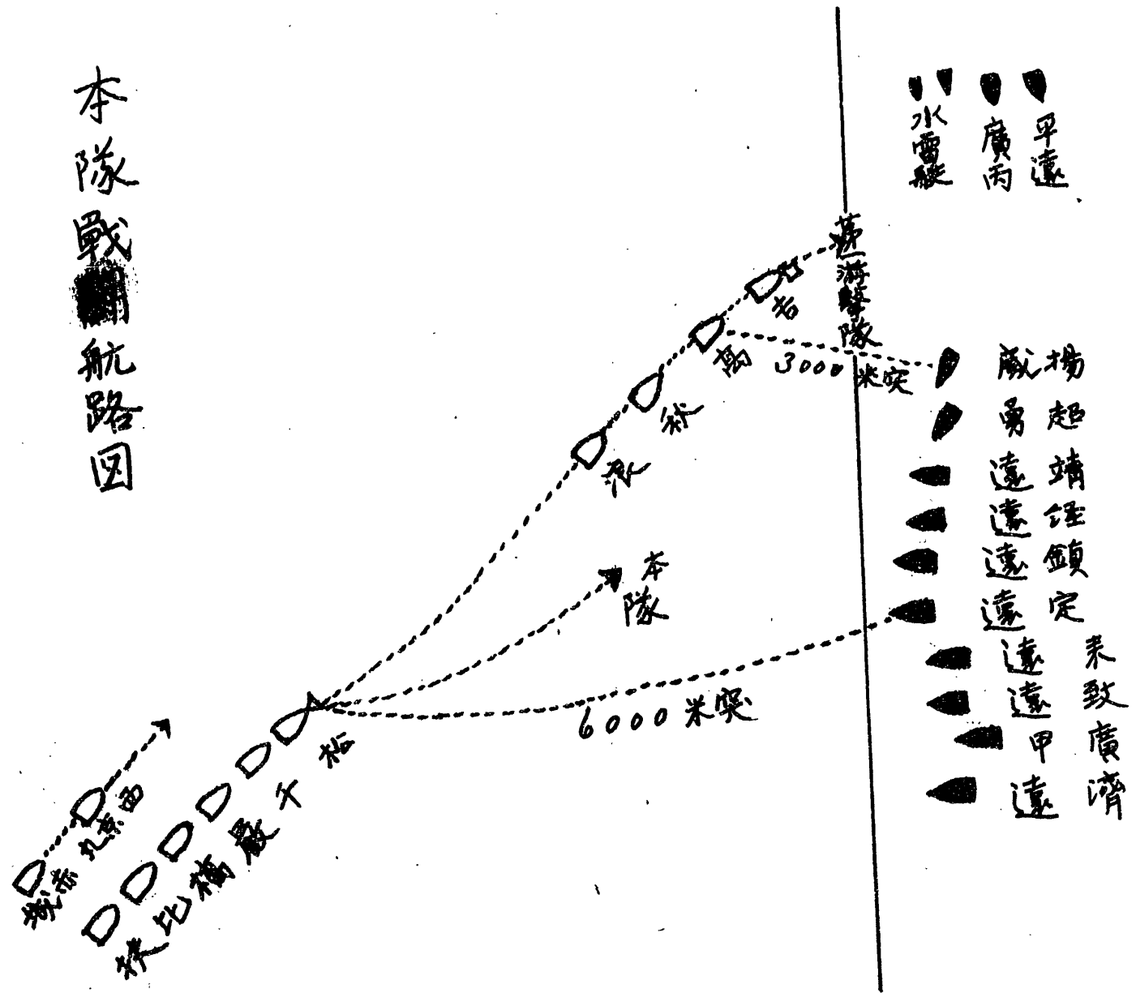
敵來襲ノ虞ヲ絶チ外ハ則チ我ト敵国ノ海面ヲ制圧スルニ至リ茲ニ始テ大本營ノ作戦大方針即チ陸軍ヲ以テ速ヒニ渤海湾ニ輸送シ決戦ヲ行フノ時機ニ達スルヲ得タリ二十三日聯合艦隊ハ左ノ勅語ヲ拝ス

朕我聯合艦隊ノ黄海ニ奮戦シ大捷ヲ得タルヲ聞キ其威力已ニ敵海ヲ制圧スルヲ聞ク深ク将校下士卒ノ勤労ヲ察シ茲ニ特殊ノ勲功ヲ奏スルヲ嘉ス

(明正印刷局)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

本隊戰[redacted]航路図


平遠
廣丙
水雷艇
揚威
靖遠
鎮定
威勇
遠
遠
遠
遠
遠
遠
遠
遠
甲
遠
来致廣濟
薩
游擊隊
吉
野
3000米突
秋
沙
本隊
6000米突
磯
赤
九
京
西
D
D
D

艦隊司令長官及幕僚	聯合艦隊司令長官 海軍中將 伊東祐亨 參謀長 海軍大佐 鮫島吳規、參謀 海軍大尉 島村速雄 機關長 機關大監 湯地定基、軍醫長 軍醫大監 河村豐洲 秘書 海軍大主計 藤田經孝、

本隊

艦名	艦種	排水量	艦長名
松島	海防艦	四、三七八	海軍大佐 尾本知道
巖島	海防艦	四、三七八	海軍大佐 横尾道昱
橋立	海防艦	四、三七八	海軍大佐 日高壯之丞
扶桑	甲鐵コーヴェット	三、七七七	海軍大佐 新井有貫
千代田	甲鐵帶巡洋艦	二、四三九	海軍大佐 内田正敏
比叡	甲鐵帶コーヴェット	二、二八四	心得 海軍大佐 櫻井規矩之左右

特務艦

艦名	艦種	排水量	艦長名
赤城	砲艦	六、二二	海軍少佐 坂元八郎太
西京丸	巡洋艦代用	四、一〇〇	海軍大佐 廣野勇之進

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

	第一游擊隊			
艦名	吉野	高千穂	秋津洲	浪速
艦種	巡洋艦	巡洋艦	巡洋艦	巡洋艦
排水量	四、二一六	三、七〇九	三、五〇〇	三、七〇九
艦長名	海軍大佐 河原要一	海軍大佐 野村貞	心得 海軍少佐 上村彦之丞	海軍大佐 東郷平八郎

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

海戰ニ與リタル清國軍艦乘組將校

艦名	艦種	排水量	職名	官名	人名
				北洋海軍提督	丁汝昌
定遠（旗艦）	甲鉄砲塔艦	七、三三五	管帶	總兵（少將相當）	劉步蟾
鎮遠	甲鉄砲塔艦	七、三三五	管帶	總兵（少將相當）	林泰曾
經遠	甲鉄砲塔艦	二、九〇〇	管帶	副將（大佐相當）	林永升
來遠	甲鉄砲塔艦	二、九〇〇	管帶	副將（大佐相當）	邱寶仁
致遠	巡洋艦	二、五〇〇	管帶	副將（大佐相當）	鄧世昌
靖遠	巡洋艦	二、三〇〇	管帶	副將（大佐相當）	葉祖珪
濟遠	巡洋艦	二、五〇〇	管帶	副將（大佐相當）	方伯謙
平遠	甲鉄砲艦	二、一〇〇	管帶	都司（大尉相當）	李和
超勇	巡洋艦	一、三五〇	管帶	參將（中佐相當）	黃建勳
揚威	巡洋艦	一、三五〇	管帶	參將（中佐相當）	林履中
廣甲	巡洋艦	一、二九六	管帶	守備（中尉相當）	吳敬榮
廣丙	巡洋艦	一、〇〇〇	管帶	游擊（少佐相當）	林國祥
福龍（機械水雷艦）	巡洋水雷艦		管帶（艦長）	都司（大尉相當）	蔡廷幹
左隊二番 水雷艦	水雷艦	一〇八	管帶		不詳
左隊三番 水雷艦	水雷艦		管帶	守備（中尉相當）	李仕元

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/